

令和5年度群馬県立高崎東高等学校 1 学期終業式式辞

皆さん、こんにちは。令和5年度の1学期は本日で終了します。終業式等はオンラインでという声もありますが、今日は比較的気温がここ数日の中では低い方なので、一同が集まる方式で実施することにしました。1年生の皆さんは初めてだと思いますが、私が昨年度、始業式や終業式の際に話してきたことは、学校における儀式的行事の意義についてです。儀式的行事は文部科学省が定める学習指導要領にも記されている行事で、「学校生活に有意義な変化や折り目を付け、厳粛で清新な気分を味わい、新しい生活の展開への動機付けとなるようにすること」、記されています。つまり今日という日において、明日から始まる夏季休業中の生活への動機付けをいかに行うか、これについて具体的な手法を考えなければなりません。学校生活において変化や折り目を付けるため、今日ならば日常的に授業のある時期と夏季休業の折り目をどうすれば付けられるのか、厳粛な気分はどうすれば味わうことができるか、です。ここに始業式や終業式という儀式的行事を行う意義があります。この行事は、自分の過ごしてきた学期を振り返る、そこから生まれた反省を、あるいは良かった点を踏まえて明日から始まる休業をどう過ごすか計画を立てる、このように生活の区切り、メリハリを、通常の学校生活とは異なる雰囲気の中で実際に体験する機会なのです。併せて、このような体験的な活動を通して、集団への帰属意識や連帯感を深め、クラス・学年を超えた多様な他者と交わり合い、集団の中での行動様式を身に付けます。クラスメート以外の集団とも、同じ場所で同じ行事に参加し、校歌と一緒に歌う。3つの学年、計13のクラスが、高東の生徒一人ひとりが参加して、協力して、一つの楽曲を歌いあげ、高東という集団に属しているという意識を再確認し、集団の一員であるという自覚を新たに持つ。おおげさに表現しましたが、これが儀式的行事の始業式や終業式の目的や意義になります。コロナによってめっきり歌う機会が少なかった校歌ですが、ぜひ同じような儀式的行事である2学期の開校記念式や3学期の卒業式で斉唱してください。

さて生活の区切りとして終業式を活用するのであれば、皆さんは自己肯定感をもって区切りをつけてください。これは1学期の始業式で話したことです。できなかったことばかりをあげて振り返るのではなく、できたこと、あるいは結局できなかったがチャレンジはしてみたこと、途中までしかできなかったがそれでも勇気を持って一歩だけでも踏み出せたこと、そのようなことを自分自身で好意的に評価してください。みなさんのちょっとした良いところを、第三者的な立場の目で認めてあげましょう。

終わりに3年生は進路希望の実現の可否について勝負の時期となったこと、1・2年生は高東の中核的存在になったこと、それらを皆さんが自覚して有意義な夏季休業を過ごすことを期待し、1学期終業式の式辞とします。

令和5年7月21日

群馬県立高崎東高等学校 校長 関口 俊邦